

令和7年度 第3学年

教科	前年度正答率（％） 【全国比（P）】	課題となる 観点	問題番号・出題のねらい ＜学習指導要領＞	前年度自校正答率 【全国比】	児童生徒の誤答の傾向と分析（○）、教育指導上の要因分析（●）	課題改善のための≪指導場面（指導時期）≫と具体的な取組	目標値	検証値	
国語	教科全体	84.3【+8.4】	思考・判断・表現	問題番号・出題のねらい ＜学習指導要領＞	前年度自校正答率 【全国比】	○ゲームについて、順序を表す言葉を使って説明している文章から、話し手の工夫について考える問題であったが、「しつもんをするときに、気をつけることをいちはんはじめに話している。」を選択する誤答が多かった。順序を表す言葉が何かは理解しているが、それを使って何について説明しているか捉えることができていなかったためと考えられる。 ●話す事柄の順序について考える際に、話の内容が相手に伝わるようにするにはどのような順序を踏まればよいのかを考える指導が不十分であった。	≪話すこと・聞くことの授業（７・９・１１・３月）≫ 「構成の検討、考えの形成」の学習過程において、話の内容が相手に伝わるようにするために、どのような順序を踏まればよいのかを考える時間に重点を置き、順序をよく考えることで、自分の伝えたいことを表現できたという実感を味わわせ、工夫して話すことができるよう指導する。	正答率 50%	％ 【P】
	知識・技能	90.9【+4.5】							
	思考・判断・表現	78.6【+13.8】							
	主体的に学習に取り組む態度	82.2【+23.8】							
社会	教科全体	【】	思考・判断・表現	問題番号・出題のねらい ＜学習指導要領＞	前年度自校正答率 【全国比】	○ ●	≪（月）≫	正答率 ％	％ 【P】
	知識・技能	【】							
	思考・判断・表現	【】							
	主体的に学習に取り組む態度	【】							
算数／ 数学	教科全体	87.6【+18.5】	思考・判断・表現	問題番号・出題のねらい ＜学習指導要領＞	前年度自校正答率 【全国比】	○単位が異なる３つのかさの大小について、問題文に示されている「かさのたんいをmLにそろえてくまらる」という考え方に合うように記述する問題で、単位を変換せずにそのままの単位をつかって説明している誤答が多かった。かさを比べるために、かさの単位をmLに揃えてあてはまる言葉を記述するという問題の意味や単位を揃える理由を理解できていなかったためと考えられる。 ●かさの単位の変換については定着させることができていたが、目的に応じた単位で量の大きさを表現することの指導が不十分であった。	≪長さのたんい、水のかさのたんいの授業（７・９月）≫ 測定領域の単元において、ただ単位の変換の演習に取り組むだけでなく、目的に応じた単位で量の大きさを説明する活動を取り入れる。その際、その単位を使った理由について、説明できるようにする。	正答率 40%	％ 【P】
	知識・技能	89.3【+17.1】							
	思考・判断・表現	81.0【+24.0】							
	主体的に学習に取り組む態度	80.0【+22.2】							
理科	教科全体	【】	<>	問題番号・出題のねらい ＜学習指導要領＞	前年度自校正答率 【全国比】	○ ●	≪（月）≫	正答率 ％	％ 【P】
	知識・技能	【】							
	思考・判断・表現	【】							
	主体的に学習に取り組む態度	【】							
英語	教科全体	【】	<>	問題番号・出題のねらい ＜学習指導要領＞	前年度自校正答率 【全国比】	○ ●	≪（月）≫	正答率 ％	％ 【P】
	知識・技能	【】							
	思考・判断・表現	【】							
	主体的に学習に取り組む態度	【】							